

【ツーリズム】

基本方針4 「サイクルツーリズムの醸成」

施策1 世界に誇るサイクリングロード整備

浜名湖観光圏における、快適で安全安心なサイクリング環境の創出に向けた、世界に誇るサイクリングロードの整備を推進します。

(※太平洋岸自転車道の整備アクションプランに基づく計画的な整備。)

措置① 大規模自転車道（太平洋岸自転車道及び浜名湖周遊自転車道線）の整備推進

- ・ 令和2年（2020年）の東京オリンピック・パラリンピックまでに大規模自転車道（太平洋岸自転車道及び浜名湖周遊自転車道線等）の整備を推進します。

措置② 案内サインの多言語化の推進

- ・ 外国人サイクリストの受け入れ体制・環境の更なる強化を図るため、案内サインにおいて英語、繁体語表記を推進します。

措置③ 浜名湖一周サイクリングルート「ハマイチ」の活用

- ・ 浜名湖サイクルツーリズム推進会議を設置し、浜名湖観光圏における浜名湖一周サイクリングルート「ハマイチ」を活用した事業を推進します。



図 48 ハマイチロゴマーク

コラム：浜名湖観光圏について



観光圏とは、「観光圏の整備による観光旅客の来訪及び滞在の促進に関する法律」に基づき、国内外からの観光客が、宿泊を伴った滞在型観光をできるような観光地域づくりを進めるもので、全国で13の観光圏が認定されています。

浜松市及び湖西市を圏域とする「浜名湖観光圏」は、平成21年度(2009年度)にこれに認定されました。

現在、第3期となる「浜名湖観光圏整備計画（平成31年(2019年)4月～令和6年(2024年)3月）」に基づき、官民33団体で構成する「浜名湖観光圏整備推進協議会」において、「海の湖」をブランドコンセプトとして、観光地域づくりのための様々な取り組みを進めています。

浜名湖観光圏では、その取り組みの一つである「滞在コンテンツ・プログラムの造成・提供」として、「アウトドアツーリズムの推進」を掲げ、浜名湖サイクリングロードを中心としたサイクルツーリズムを推進しており、「浜名湖サイクルツーリズム推進会議」など、関係主体と連携して各種事業を展開しています。

施策2 サイクリスト受け入れ環境の充実

サイクリストの誘客と市内サイクリングルートの知名度向上に向けた、サイクリストにやさしい休憩施設や宿泊施設、その情報提供など、受入環境の充実を推進します。

措置① 「サイクリストウェルカム」の登録促進

- 平成 31 年(2019 年)1 月現在、「サイクリストウェルカム」は 30 件となっており、さらなる呼びかけにより登録の促進を図ります。

措置② 「Bicycle Pit」の登録促進

- 平成 31 年(2019 年)1 月現在、自転車の休憩所「Bicycle Pit」は 93 件となっており、さらなる呼びかけにより登録の促進を図ります。



図 49 バイシクルピット表示プレート

措置③ スポーツ車のシェアリング等を行うサイクルステーションの設立支援

- スポーツ車のシェアサイクル事業を行うとともにサイクリスト向けの情報や交流の場を提供する、サイクルステーションの設立を支援します。

措置④ インターネットを利用した情報提供の充実

- 浜名湖一周サイクリング「ハマイチWEB」において、「サイクリストウェルカム」の宿、自転車の休憩所「Bicycle Pit」、サイクルステーション等を含めた情報の充実に取り組みます。
- SNS「LINE@」等を利用し、タイムリーできめ細やかな情報発信に取り組みます。



図 50 ハマイチWEB

措置⑤ 浜名湖一周サイクリング「ハマイチWEB」の多言語化

- ・ インバウンドの獲得を目指すとともに受け入れ体制・環境の更なる強化を図るため、ハマイチWEBにおける英語、繁体語での情報提供に引き続き取り組みます。

措置⑥ トイレや休憩施設等、必要な情報を盛り込んだサイクリングマップの作成

- ・ トイレや休憩施設等、サイクリストに必要な情報を盛り込んだサイクリングマップの作成・更新に引き続き取り組みます。
- ・ サイクリングマップは紙媒体だけでなく、ハマイチWEBでも見ることができ、スマートフォンでも確認できます。
- ・ 浜松駅周辺でシェアサイクルを利用する外国人向けの、駅周辺および浜名湖(主に東岸)を案内する英語版マップを作成しました。日本の交通ルールも掲載されています。



図 51 浜名湖サイクリングマップ

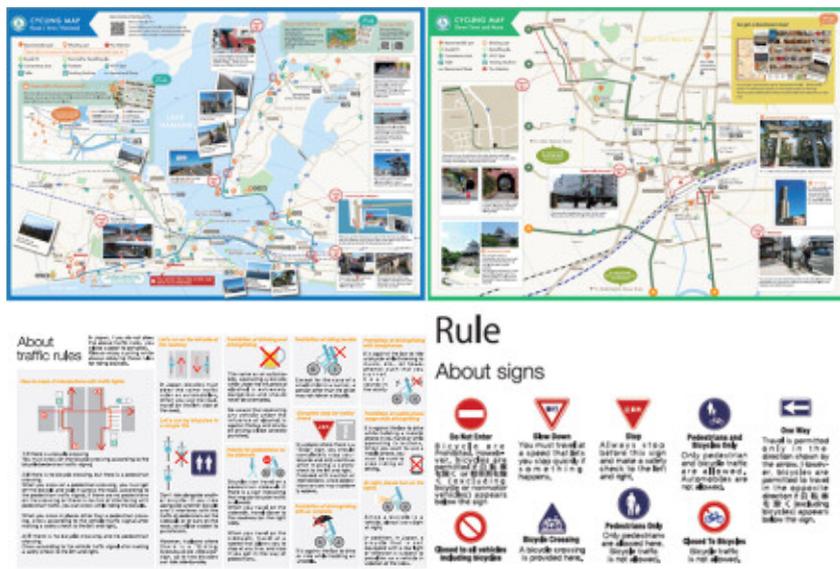


図 52 外国人向けマップ

措置⑦ ガイドサイクリスト向け英語講座等の開催による外国人向けガイドの質の向上

- ・ ガイドサイクリストのさらなる質向上を図るため、引き続き英語講座等研修会の開催に取り組みます。

措置⑧ 幅広いサイクリスト獲得のためのサイクリングルートの設定

- ・ 幅広い層のサイクリストを獲得するため、当地の魅力を感じることができるサイクリングコースを複数ルート設定し、併せて各名所や店舗に立ち寄ってもらえるよう紹介しています。今後、広域的なサイクリングルートを設定するなど、より魅力的なコース設定にも取り組みます。



図 53 天竜区サイクリングマップ

施策3 サイクリングイベント等の充実

浜名湖一周サイクリングの知名度向上や観光活性化に向けた、継続的なサイクリングイベントを実施します。

措置① 幅広いターゲットを対象にしたサイクリングイベントの継続的な開催

- ・ 浜名湖サイクルツーリング

浜名湖を一周するサイクリング大会が毎年3月に開催されています。コースは高低差があまりなく、速さを競わないことから、初心者でも気軽に参加できるイベントです。浜名湖岸をコースに設定しており、眺望を楽しめることも魅力です。



図 54 浜名湖サイクルツーリングの様子

- ・ 浜名湖サイクルツーリングガイドライド

サイクルツーリングと同時開催されるガイド付きのサイクリングで、テーマ別にコースが設定されており、浜名湖周辺を1組15人程度で走りながら、観光や食を楽しむことができます。



図 55 ガイドライドの様子

- ・ 大試乗会

浜名湖サイクルツーリングガイドライドと同時開催される自転車試乗会で、約20のメーカー(浜名湖サイクルツーリング2019実績)の自転車に無料で試乗することができます。



図 56 大試乗会の様子

- ・ 天竜サイクルツーリズム
天竜区内を走るサイクリングイベントが隔年 9 月に開催されており、速さは競わず、楽しく完走を目指すものです。山あり川ありの変化に富んだコースとなっており、高低差はあるものの、初心者でも完走が可能で、達成感を味わう事ができます。



図 57 天竜サイクルツーリズム

資料：浜松市ホームページ

- ・ その他、ショップやシェアサイクル店主催のサイクリングも数多く組まれているほか、オートレース場、公園等を利用した自転車関連イベント（競技）も開催されています。

施策4 他の交通事業者との連携促進

多様なサイクリストのニーズに対応するため、鉄道、船舶、タクシー等、交通事業者との連携促進により輸送体制を確立します。

措置① 天竜浜名湖鉄道の輪行バッグの周知促進

- 天竜浜名湖鉄道には、同社が開発した、前輪を取り外すだけで電車に乗せられ、自立する画期的な輪行バッグがあります。無料(1,000 円のデポジット制)で天竜浜名湖鉄道の有人駅で利用が可能です。鉄道会社が輪行袋を貸し出すのは日本初の取り組みです。サイクリングマップやハマイチWEBに掲載するなどし、周知を図ります。



図 58 カバー式輪行バッグ

出典：天竜浜名湖鉄道ホームページ

措置② 舟運を活用したショートカットルートの利用促進

- 浜名湖一周の途中で、舟運を利用して湖をショートカットするルートの利用促進を図ります。



図 59 船を利用した移動

措置③ 市内タクシー会社等の協力による自転車も含めた輸送体制の確立

- 市内タクシー会社等の協力により、自転車を積載可能なタクシーやその他公共交通機関の周知を図ります。

施策5 国内外サイクリストの誘客促進

国内にとどまらず海外においての浜名湖サイクリングの知名度向上や外国人サイクリストの誘客促進に向けた取組みを推進します。

措置① 三湖連携でのプロモーションの推進による知名度向上と誘客促進

- 湖の周囲長が国内ベスト3である霞ヶ浦(茨城県)、琵琶湖(滋賀県)、浜名湖でサイクルツーリズムを通して連携し、相互の誘客・送客、知名度の向上を図ります。



図 60 琵琶湖でのプロモーションの様子

措置② 広域ルートや他のルートとの連携による知名度向上と誘客促進

- 日本風景街道の一つである愛知県田原市の「渥美半島菜の花浪漫街道」と連携し、浜名湖周遊自転車道と相互の誘客・送客、知名度の向上を図ります。
- 太平洋から日本海までを繋ぐ塩の道ルートにおいて、静岡県、長野県、新潟県が連携し、サイクルツーリズムによる相互の誘客・送客、知名度の向上を図ります。

措置③ 台湾・日月潭でのプロモーションの推進による知名度向上と誘客促進

- 浜名湖と台湾の「日月潭」は2016年に友好交流協定を締結しました。日月潭において行っている浜名湖サイクリングのプロモーションを足掛かりに、外国人サイクリストを誘客するよう引き続き取り組みます。



図 61 協定締結式と日月潭を周るサイクリストの様子

措置④ サイクリングロードを活用した観光商品の造成

- サイクリストの誘客や地域の活性化に結び付けるため、サイクリングロードを活用した観光商品の造成に取り組みます。

施策6 シェアサイクルの改善による利便性・安全性の向上

シェアサイクルの利便性・安全性の向上に向けた、事業者間の連携促進及び、情報提供の改善を図ります。

措置① シェアサイクル事業者の連携による、自転車整備・点検体制の検討

- ・ 市内には複数のシェアサイクル事業者が存在しており、事業者間の連携により、できる限り多くの拠点において効率的に自転車の整備・点検が行えるような体制の検討に取り組みます。

措置② シェアサイクルの予約一元化の検討

- ・ 市内には複数のシェアサイクル事業者が存在している中、近年利用者が増えている E-BIKE については、ユーザー目線から利用しやすい予約一元化の検討に取り組みます。

措置③ 浜名湖一周サイクリング「ハマイチWEB」での情報発信

- ・ 浜名湖一周サイクリング「ハマイチWEB」からもシェアサイクル情報にアクセスできるようにし、周知を図ります。

措置④ シェアサイクルの相互乗捨て

- ・ 令和元年現在「ゆ〜りんターミナル」の名前が付いた7か所のシェアサイクルショップでは、相互に自転車の乗り捨てが可能になっています。今後も利用者の利便性を高めるため、検討に取り組みます。



図 62 シェアサイクルショップ

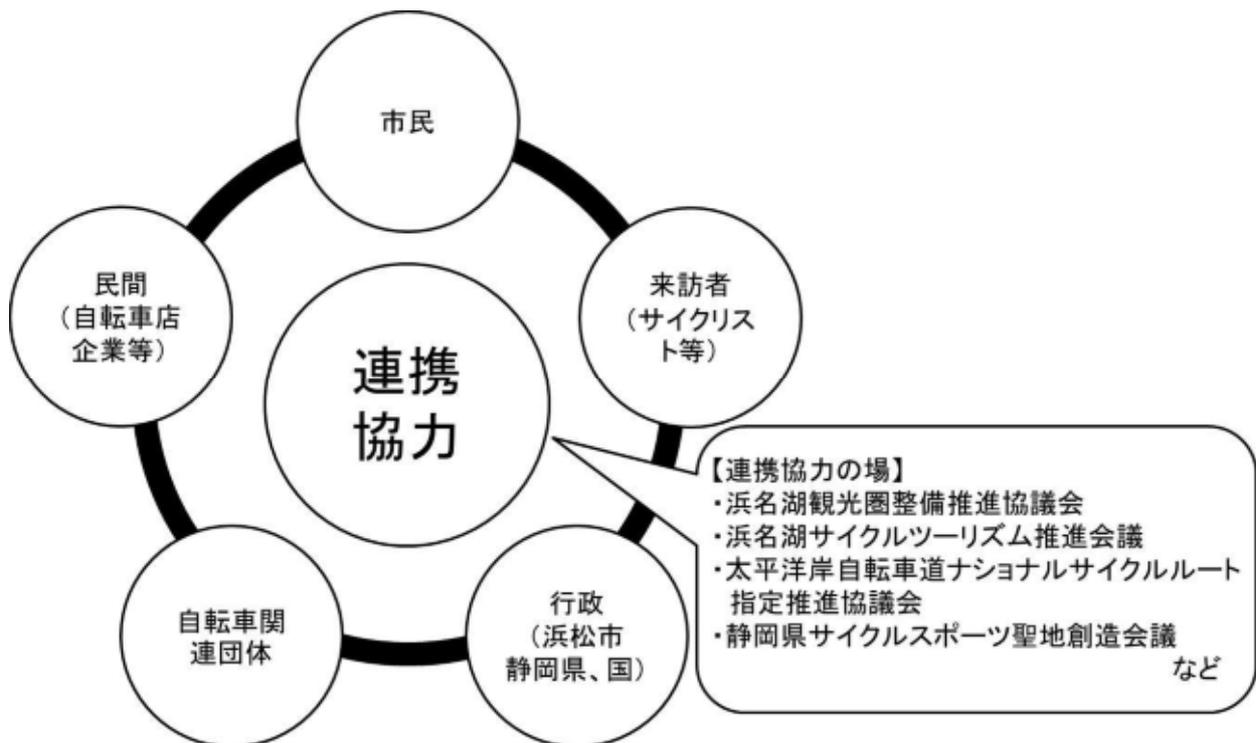
4 計画の推進に関する事項

4-1 計画の推進体制

目標とする「自転車が安全・快適に利用できる環境の創出」、「生活・レクリエーションにおける利活用の高揚」の実現に向け、施策や措置を着実に実行していくため、関係各課が連携した庁内体制を充実させるとともに、市民、自転車利用者(愛好家)、自転車店、自転車関連団体、商工会議所、観光協会、大学教授等学識経験者、企業等と連携・協力した推進体制を構築します。

特に、基本方針4にかかげる「サイクルツーリズムの醸成」にかかる取組については、今後も「浜名湖観光圏整備推進協議会」、「浜名湖サイクルツーリズム推進会議」、「太平洋岸自転車道ナショナルサイクルルート指定推進協議会」などの協議会を最大限活用しながら進めていくこととします。

■ 推進体制



4-2 計画のフォローアップ（進捗管理指標）

本計画では、基本方針ごとに設定した指標を用いて、計画の進捗を確認し、定期的なフォローアップを行います。また、計画期末（令和 10 年（2028 年度））までに施策の効果に関する評価を行うとともに、社会情勢の変化等を踏まえて本計画を見直します。

【安全・安心な通行環境の確保】

基本方針 1 「自転車利用者等が安全・安心して移動できる環境づくり」

指標：自転車通行空間整備延長

【2019 年】52.01 km ⇒ 【2029 年】173.41 km

【自転車利用拡大】

基本方針 2 「自転車の利活用を高める」

指標：駐輪台数充足率（需要に対する駐輪可能台数の割合）

※ JR 浜松駅周辺市営駐輪場（10 箇所：2019 現在）の駐輪台数

【2018 年】77% ⇒ 【2029 年】100%

【サイクリスポーツ・健康】

基本方針 3 「サイクリスポーツの振興と自転車活用による健康増進」

指標：健康寿命（サイクリングをはじめとした運動習慣の定着等による生活習慣改善効果等）

【2016 年】男性 73.19 歳 ⇒ 【2029 年】男女ともに 2016 年より延伸
女性 76.19 歳

【ツーリズム】

基本方針 4 「サイクルツーリズムの醸成」

指標：旅行者満足度（浜名湖観光圏整備計画における目標値を準用）

【2018 年】84% ⇒ 【2029 年】90%